



平成 26 年 10 月 29 日

各 位

株式会社システム・テクノロジー・アイ
代表取締役社長 松 岡 秀 紀
(証券コード:2345)東証二部
東京都中央区築地一丁目 13 番 14 号
(お問い合わせ先)常務執行役員管理本部長 内山 富士子
電話 03-5148-0400

平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想との差異及び
平成 27 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 26 年 4 月 25 日に公表した平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)の業績予想と実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また通期業績予想についても修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期業績予想数値との差異

平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 575	百万円 △8	百万円 △12	百万円 △14	円 銭 △10.79
実 績 値 (B)	489	△11	△14	△22	△16.66
差 異 (B - A)	△86	△2	△2	△7	—
増 減 率 (%)	△15.0	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	519	4	3	0	0.67

平成 27 年 3 月期第 2 四半期個別累計期間(平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 331	百万円 △16	百万円 △17	円 銭 △12.75
実績値(B)	268	△36	△36	△27.36
差異(B-A)	△62	△19	△19	—
増減率(%)	△19.0	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	303	△5	△4	△3.65

2. 通期業績予想の修正

平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,234	百万円 46	百万円 41	百万円 30	円 銭 22.90
今回修正予想(B)	964	△33	△39	△48	△36.66
増減額(B-A)	△270	△80	△80	△79	—
増減率(%)	△21.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	1,065	45	42	36	27.18

平成 27 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 720	百万円 19	百万円 17	円 銭 13.20
今回修正予想(B)	553	△63	△63	△47.68
増減額(B-A)	△166	△82	△81	—
増減率(%)	△23.1	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月期)	647	23	22	17.05

3. 第2四半期業績予想数値との差異及び通期業績予想修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

Learning 事業及び人材紹介・派遣事業においては売上高及び利益とも、計画通り推移いたしました。

一方、当社の主力サービスである iLearning 事業においては、企業向け社員総合学習システム「iStudy Enterprise Server」関連の価格競争が激化し、新規案件の成約が落ち込んだことにより、売上高が計画を下回りました。利益につきましては、収益の基盤となる「iStudy Enterprise Server」の売上高が計画を下回ったことと、海外向けペーパーレスシステムへの先行投資により営業損失が増加いたしました。

それにより第2四半期累計期間の業績予想を修正いたします。

(2) 通期業績予想

第2四半期累計期間では、価格競争の激化に加えて、当初計画していた営業及び技術部門体制整備の対応に遅れがでました。

当社グループの売上高及び利益は、iLearning 事業の「iStudy Enterprise Server」関連の新規成約数に大きく影響を受けます。さらに「iStudy Enterprise Server」関連の案件は、成約までのリードタイムが長いこともあり、第2四半期の営業活動の実績及び下半期の成約見込みを見直した結果、第2四半期累計期間の売上減少分を補い、かつ当初見込みを上回る新規成約の獲得は難しいと判断し、通期業績予想を修正いたします。

下半期は、来期以降に向けた売上基盤の再構築の準備期間とし、お客様に支持される製品の開発及びそれを実現する社内体制強化に注力し取り組んでまいります。また競争が激化している市場の中で、競合他社との差別化を図るために、既存のお客様へのサービス向上に努め、お客様のニーズを的確に把握すべく市場調査を徹底的に行ってまいります。

なお、配当につきましては、財務体制に不安がないと判断し当初予想通り 5 円といたします。

※現在、通期業績予想の修正及び当社グループを取り巻く市場環境等を踏まえ、中期計画を見直し策定中であり、事業の成長戦略、採算性、コスト構造等を徹底的に見直し安定した収益確保ができる体質に変えていきます。中期計画が出来次第速やかに公表いたします。

以上

ご注意:	本資料に記載されている現在の計画・見通しなどのうち、既に確定した事実でないものは将来に関する見通しであり、これらは発表日現在に入手可能な各種データに基づいて作成されたものであります。従って、実際の業績は様々な不確定要素が内在しており、上記の見通しとは大きく異なる結果となり得る場合もありますので、ご承知おきください。
------	--